

## 浅草地区まちづくりビジョン策定委員会 各専門部会における主な意見について

各専門部会において、主に「論点1：ウォーカブルな空間づくり」及び「論点12：公民連携のまちづくり」について検討した。部会の議論の総括及び主な意見は、以下のとおりである。

### 1. 第2回まちづくり部会（令和5年1月30日（月））

#### 【総括】

「論点1：ウォーカブルな空間づくり」について、回遊の観点から有効であることから、今後も継続して議論していくことを了承いただいた。

#### 【主な意見】

##### （1）回遊性の向上について

- ①滞留時間が長くなると消費額も増える傾向があるため、長時間楽しめるまちにしていくことが重要である。
- ②伝法院通りの整備により、六区ブロードウェイまで人通りが増えたように、面的にまちを活性化していく発想が重要である。
- ③隅田公園やリバーサイドギャラリー、防災船着場の活用を工夫し、水辺への誘導を図っていく必要がある。
- ④隅田川の舟運、隅田公園、地区西側という動線を強化すると回遊性が向上するのではないか。

##### （2）ウォーカブルな空間（道路空間）の活用について

- ①凸凹な道路環境や駅のバリアフリー化が課題であり、「ユニバーサル」を原点に考えていく必要があると感じている。
- ②浅草は渋谷等の他地区と比較して立っている人が多いと感じる。座って滞留できるような場所をつくると居心地が良くなるのではないか。
- ③道路空間の活用にあたっては、居住者の来訪も多い地区であることから、歩行者と自転車の安全性確保も、十分に考える必要がある。
- ④雷門通りをウォーカブルな空間にしていくことは、混雑緩和や水辺とのつながりの観点から効果が大いのではないか。また、カフェテラスのような活用が出来ると、人の流れやイメージかなり変わるのではないか。

#### 【基盤整備部会への申し送り事項について】

- ・バリアフリー対応は、まちづくりとして重要な要素であるため、基盤整備部会においても取り上げてほしい。

## 2. 第2回基盤整備部会（令和5年2月8日（水））

### 【総括】

「論点1：ウォーカブルな空間づくり」について、自動車交通量などの詳細な分析が必要ではあるもの、今後も継続して議論していくことを了承いただいた。

### 【主な意見】

#### （1）まちの将来について

- ①短期的な課題の解決だけでなく、中長期の視点や、上野・スカイツリーなどの広域エリアとの連携等も踏まえて、検討していく必要がある。
- ②今後の長期的な旅行動向の変化も見据えて検討する必要がある。
- ③短期、中期・長期という時系列を意識して議論していくことが重要である。
- ④鉄道駅も含め、多くの建物が更新を迎える時期に来ている。そのようなことも踏まえながら、未来の浅草を考えていくことが重要である。
- ⑤目に見える緑が少なく感じる。土地利用のあり方も含めて、検討したほうがよいのではないか。※緑被率の確認（参考2-1）

#### （2）回遊性の向上

- ①滞在時間と消費額には、一定の相関関係が見られることから、いかにして滞在時間を長くしていくかが、鍵と考えられる。
- ②隅田川とまちとのつながりが薄いと感じる。川へのつながりについては、現ビジョンの未了プロジェクトである東武浅草駅周辺を含めた整備も関係してくると思う。
- ③浅草地区内だけでなく、上野やスカイツリーなど広域での視点も必要である。  
※上野～浅草地区～東京ミズマチ～東京スカイツリーの人流の確認  
（参考2-2）
- ④建物更新にあわせ、スポット的に魅力をつくっていく視点も必要ではないか。

#### （3）ウォーカブルな空間（道路空間）のつくりについて

- ①ウォーカブル空間の実現には道路だけではなく、駅周辺や広場等のオープンスペース整備も含めた検討が必要ではないか。
- ②雷門通りのウォーカブル空間の実現にあたっては、自動車交通量や交通を制限した場合の車両動線、物流動線等への影響等を科学的に分析しながら進めていく必要がある。  
※貨物用駐車場の確認（参考2-3）、交通規制の確認（参考2-4）
- ③浅草地区には、多くの住民もいるので、観光地としての側面だけでなく、住民への影響も考慮して検討する必要がある。

### 【まちづくり部会からの申し送り事項について】

バリアフリー化の検討については、今後も継続して議論していく考えである。

※浅草地区におけるバリアフリーの現況について（参考2-5）